

— 捨てる神あれば拾う神あり —

日頃皆様はどうなさっているのでしょうか…とされていることです。余りのガラス破片、どんどん増えて行くばかり…。小物に使ってみてもまた小さな破片が残り、生徒にあげても部屋からなくなる事にはならず…。私の長女が都立工芸高校に通っていた頃、アートクラフト科の夜間の生徒達がステンドグラスやガラス片でアクセサリー等作っているが、なにしろ都立なので思う様に材料費をかけてあげられないという話を先生からお聞きした事を思い出し、学校へ問い合わせしてみると頂けるなら是非というお返事でしたので思い切って届けてみました。すると後日先生から「まるで宝箱の様でした」とお礼のメールが届きました。少しは役に立ったのかしら…とこれをきっかけにステンドグラスやガラス工芸に若い人達が関心を持ってくれたら嬉しい事だと思いました。

そんな話を生徒にすると陶芸をやっている知人が釉薬に使ってみたいと言っているとの事。小さな破片の方がかえって使いやすいと言われ、本当に破片を送ると感謝され、2度程送っています。最後の粉まで使ってもらえればガラスにとっては「捨てる神あれば拾う神あり」かもしれませんね。そう思うとますます捨てられなくなりいつまでたっても減りません。皆様はいかがですか？

文章

ステンドグラス hiro 鈴木洋美

メンバー紹介

その9

小澤 寿子

この度、入会させて頂く事になりました小澤です。ステンドと出会い31年になります。美術を専攻し学んだ経験がなく、自分の感性だけで取り組んできた様に思います。入会を機に色んな事を学べたらと思っています。今は教室の傍ら創作活動をしています。時折、古いステンドの修理をする事があります。何十年も塵にまみれ、時を経てガラスが蘇る…。遥か昔の職人さんが手掛けた作品に敬意を払いつつ、そのお手伝いができる事に喜びを感じ、またふたたび輝きを放つガラスに改めて魅力を感じています。そして百年後に誰かの手によって蘇る事ができる様な作品ができましたら素敵だなと思います。

活動報告

2015年東京展実行委員会の開催

2015年3月2日(月) 第4回、3月27日(金) 第5回実行委員会を開催しました。5月11日(月) 反省会を開催しました。

第7回通常総会の開催

2015年4月16日(木)、東京都美術館・スタジオにて第7回通常総会を開催しました。

展示会のお知らせ

JSGAA 日本ステンドグラス作家協会企画 フランス・パリ展

“一世紀の時を経て”<AU FIL DU TEMPS>

会期：2015年11月17日(火)~11月28日(土)

会場：パリ日本文化会館・地上階

後援：在フランス日本国大使館

ホームページのお知らせ

<http://jsgaa.org/>

\*\*\*\*\*  
本協会への入会、お問い合わせは事務局及び各会員までお願いします。  
\*\*\*\*\*

発行日 2015年7月10日

発行者 日本ステンドグラス作家協会

(事務局) 〒108-0074 東京都港区高輪 4-2-7-201

林 晶子 (A工房)

[info@jsgaa.org](mailto:info@jsgaa.org)

編集者 〒841-0004 佐賀県鳥栖市神辺町 1589-3

櫻井 由美 (ステンドグラス工房 Y's COMET) TEL0942-84-5546

編集委員 滋野 晶江 (ステンドグラス工房 アトリIM)

田所 孝一 (ステンドグラス工房 K.T)

日本ステンドグラス作家協会

Japan Stained Glass  
Artist's Association

日本ステンドグラス作家協会  
会報誌

JSGaA

第14号

2015年7月 Vol.14



ロシア軍少女の微笑み Watanabe Yuichi

## 第4回 JSGAA 展

### 第4回 JSGAA 展 2015 東京“EMOTION IV 感動”を振り返って



2015年4月18日(土)～23日(木)まで、全会員の多大な協力により東京都美術館2階第2展示室に於いて、第4回JSGAA展は大好評の内に無事終了することが出来ました。公募展示を含め展示作品157点・作品の電気使用ワット数3750W(LED使用により実質80%の軽減となりました)・入場者総数2130名という結果でした。月曜日が休館日に当り、実質4日と半日の開催としては異例の入場者の数字と考えられます。

東京都美術館の本展示室では初めてとなる、全作品がステンドグラス作品という展示でもありました(ギャラリーでは、各美術大学、ガラス



工芸科合同の卒業展示会があります)。東京都美術館、公募展示担当の交流係の方からも、「都美術館に於いては初めてのことで、とても期待をしております」とのお言葉を頂いての展示会に向けての始動でし

た。

ステンドグラス作品だけの展示が初めてのことであり、都美術館側からは電気使用量、安全面、展示計画等、全てにおいて入念な開催計画に対しての慎重な対応があり実行委員会側との数回に渡る会合を持つての開催でした。また指定業者を受けて頂いた彩美堂さんも初めての扱いとなるガラス作品79梱包の輸送、展示、撤収作業を完璧に遂げて頂き、無事終了できました。都美術館・展示室における展示は、日本の最高峰に位置する会場における展示でもあります。芳名帳には日本全国の地名があり、会場のもたらす知名度の威力を感じました。次回、第5回展に繋がる力となり会員の結束を強く感じた第4回展でした。

(実行委員会を代表して：事務局林晶子)

## レポート

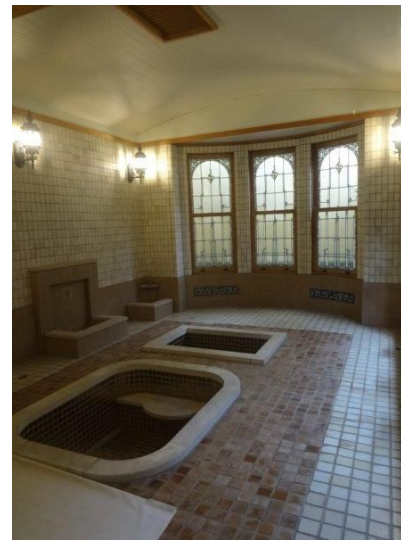
### — 起雲閣(キウンカク)訪問記 —

静岡県熱海市：起雲閣(1919年—大正8年・築)

起雲閣は海運王と呼ばれた内田信也氏により別荘として建てられその後鉄道王の異名を持つ根津嘉一郎氏の所有となり洋館部分が増築され、またその後1947年(昭和22年)からは熱海の地で多くの文豪に愛される旅館となりました。旅館閉館後、この建物は熱海市が取得し、熱海市指定有形文化財となり、一般に公開され建築当時の姿を大切にとどめています。

初夏の一日にここを訪れました。建物は広い庭園を囲むようにいくつかの棟に分かれて建っています。洋館のサロンは、屋根をガラス張りにすることにより、欄間と天井のステンドグラスに自然光が届き、床のモザイクタイルにも輝きを映しています。

館内のちょっとした出窓、床の間風のしつらえにもアールデコ風、ビザンチン風のステンドグラスが施され、館内の至る所に大正、昭和のモダニズム溢れる工芸装飾がみられ日本建築と融和した美しさを感じられます。素通しの波打つ窓ガラスからは広々とした庭



園が眺められ、ゆがんだ景色の奥行きある優美さは一層の気品と静けさを残しています。

起雲閣の見学コース順の行程はたっぷりであり、心を豊かにしてくれるものでした。ステンドグラスの種類と多様さに先人のガラス装飾への意識の高さと憧れを見た思いがしました。

文章・写真

A工房 林 晶子

## エッセイ

### — アート未来展で東京都議会議長賞を受賞して —

アート未来展へは毎年立体の作品を出展していましたが、今回は第20回の節目の年で、気分も新たにパネルを製作してみました。

今年11月に開催しますフランス展に向け日本らしさをテーマにパネルを製作したことから、以前より考えていたパネルの中に立体を組み込んでみたいとの思いを今回実行してみました。

作品の題名は「静寂」 竹林の静寂さと遊び心の可愛らしさ(竹で編んだ手まり)又竹籠のランプを織り混ぜた作品に仕上げました。(ちょっと面白い作品が出来たかな!)と思った作品で、東京都議会議長賞を受賞することが出来てうれしく思います。

文章・写真

ステンドグラス工房 陽華 高橋 陽華

